

### 31. 熊本大学五高記念館改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
研究	(法人評価までに改善する計画) 平成26年度に客員教授及び非常勤講師を1人ずつ委嘱し、研究体制基盤を強化した。平成27年度からは、効率的な研究体制基盤の確立を図るため、館長(1人)、専任教員(1人)、客員教員(2人)、非常勤講師(1人)、特定事業研究員(2人)の体制で、単年度又は複数年度にまたがる研究計画を作成する。	平成27年度より、館長、専任教員、客員教員及び特定事業研究員個々の研究計画書の作成を義務付け、研究体制基盤の確立した。研究計画書は研究テーマ及び研究計画(400字程度)を記述し、次年度以降は前年度研究成果の概要(200字程度)、研究成果の公表(著書・論文・その他)を盛り込み、毎年5月末までの提出とした。	平成28年熊本地震の影響で、研究計画書の提出を見送った。平成29年度に実施予定である。
	(2年間で改善する計画) 地域文化の発展・向上及び熊本県における博物館学研究の中核的役割を果たすため、組織として中・長期的な研究計画を策定する。	熊本県における博物館学研究の中核的役割を果たすため、五高記念館の基本理念及び基本構想の策定を行った。	地域文化の発展・向上及び熊本県における博物館学研究の中核的役割を果たすため、平成27年度に策定した五高記念館の基本理念及び基本構想に基づき中・長期的な研究計画を策定する予定であったが、平成28年熊本地震の影響で断念した。五高記念館本館及び化学実験場の復旧・耐震補強工事計画に即し、平成29年度には中・長期的な研究計画を策定予定である。
	(次の組織評価までに改善する計画) 地域文化の発展・向上及び熊本県における博物館学研究の中核的役割を果たすため、学外研究者を積極的に招聘し、効率的な研究基盤体制の確立を図る。	平成27年度に非常勤講師を客員准教授とした。、客員教員体制の強化により、効率的な研究基盤体制の確立を図った。また、熊本県博物館ネットワーク構築事業に企画段階から参画し、収集し資料のデータベース化及び共有化を図り、博物館資料の研究基盤体制を確立した。	平成27年度に研究基盤体制を強化したが、平成28年熊本地震の影響で活かすことができなかった。今後の予算削減にともない、平成29年度から組織体制の見直しを行い、研究基盤体制の改善をはかる。また熊本県博物館ネットワークセンターと五高記念館が中核となり、県内博物館施設等との研究協力体制を構築中である。平成29年度にはその成果の一つとして展覧会を予定している。
社会貢献	(法人評価までに改善する計画) 利用者の文化的満足度を把握するため、アンケート形式による印象評価等を実施する。	平成27年6月より、利用者の文化的満足度を把握するためのアンケート調査を行った。現在、五高記念館利用後の満足度は、満足(満足度80%以上)が68%、やや満足(満足度60~79%)が24%となっており、利用者の印象評価は高水準であった。	平成27年度のアンケート回収総数は187部、うち満足度に関する有効回答は184部であった。満足(満足度80%以上)が69.0%、やや満足(満足度60~79%)が25.0%であり、94%の満足度が得られた。満足を90ポイント、やや満足を70ポイント、普通(満足度40~59%)を50ポイント、やや不満(満足度20~39%)を30ポイント、不満(満足度20%以下)を10ポイントとし、加重平均を求めると満足度は82.1ポイントであった。また満足度を他の娯楽消費のイメージに置き換え、①喫茶店(カフェ)等でコーヒーを飲む、あるいは週刊誌を買うくらい(400円程度)、②文庫本やコミックを買うくらい(700円程度)、③映画を観るくらい(1,800円程度)、④一流ホテルのランチブッフェ・バイキング(3,500円程度)、⑤観劇、コンサート(6,000円程度)、⑥テーマパークで1日楽しむ(10,000円程度)、⑦1泊2日の温泉旅行(15,000円程度)とした場合、①が20.3%、②が23.7%、③が28.8%、④が6.8%、⑤が11.3%、⑥が5.7%、⑦が3.4%であった。金額の加重平均は2,755円であり、見学後の印象評価も高い数値であった。さらに、見学後の入館料負担意思を①0円、②100円、③200円、④300円、⑤400円、⑥500円、⑦500円以上とした場合、①が7.6%、②が14.7%、③が21.2%、④が27.2%、⑤が6.5%、⑥が16.3%、⑦が6.5%であった。③の200円と④の300円が最も高い割合を示しており、この金額は公立歴史系博物館の一般的な入館料金額に相当する。五高記念館は人的・予算規模及び施設・設備面において小規模歴史系博物館に属するが、以上のことから見学後の満足度等はきわめて高いと評価できる。
	(2年間で改善する計画) 平成27年度における文化的満足度の分析を行い、その指数をゼロポイントと定め、満足度の向上に努める。	文化的満足度の向上に資するため、月ごとの利用状況を集計し、分析を行った。	平成28年熊本地震にともなう休館措置により、データ収集が不能となった。復旧・耐震補強工事及びリニューアル工事が終了し、再開できたのちにアンケート調査を復活させ、データ集積につとめ、平成27年度アンケート調査データを活かす予定である。
	(次の組織評価までに改善する計画) 満足度の向上に資するための活動に取り組み、社会貢献機能の向上に努める。	漱石記念年に当たる平成28年度に漱石関係の展覧会等の開催を計画しており、社会貢献機能の向上につとめた。	平成28年熊本地震の影響で展覧会は中止したが、準備段階で蓄積されたデータは復旧・耐震補強工事が完了し、展示リニューアルを実施する際に活用することで社会貢献機能の向上につとめる。
国際化	(法人評価までに改善する計画) 多言語タッチパネル式解説システムの利用状況を把握するため、アンケート調査を実施する。	平成27年6月より、多言語タッチパネル式解説システムの利用状況把握に係るアンケート調査を行った。タッチパネルの利用者は52%であり、利用言語は圧倒的に日本語が多かった。	平成28年度アンケート調査における多言語タッチパネル式解説システムの利用状況は51.4%であった。うち日本語利用は94.7%、英語は14.9%、中国語は12.8%、韓国語は6.4%であった。この数字を基本とし、再開後に利用率の向上につとめる。
	(2年間で改善する計画) 平成27年度の利用状況を分析するとともに、利用率の向上に努める。	利用率の向上に資するため、月ごとの利用状況を集計し、分析を行った。	平成28年熊本地震に伴い、平成28年4月15日より休館措置のため、アンケート収集が不能となった。五高記念館の復旧・耐震補強及び展示リニューアル工事後にアンケート調査を復活させ、データ集積につとめ、平成27年度アンケート調査データを活かす予定である。
	(次の組織評価までに改善する計画) アンケート調査を継続的に実施するとともに、利用率の向上に努める。	アンケート調査を継続的に実施し、利用率の向上に資するための情報収集及び分析を行った。	平成28年熊本地震に伴い、平成28年4月15日より休館措置のため、アンケート収集が不能となった。五高記念館の復旧・耐震補強及び展示リニューアル工事後にアンケート調査を復活させ、データ集積につとめ、平成27年度アンケート調査データを活かす予定である。

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
その他 （教育研 究支援）	（法人評価までに改善する計画） 「博物館に関する科目」のねらいと内容（文部科学省）及び『博物館実習ガイドライン』（文部科学省）等を参考にして、館園実習の新たな評価基準（案）を作成し、博物館側との協議を行う。	「博物館に関する科目」のねらいと内容（文部科学省）及び『博物館実習ガイドライン』（文部科学省）等を参考にして、館園実習の新たな評価基準（案）を作成し、博物館側との協議を行った。	「博物館に関する科目」のねらいと内容（文部科学省）及び『博物館実習ガイドライン』（文部科学省）並びに本学シラバスの学修成果とその割合等を参考に、館園実習の新たな評価基準を作成した。
	（2年間で改善する計画） 平成27年度の協議をもとに、新たな評価基準を策定し、28年度より実施する。	館園実習の新たな評価基準を平成27年度中に作成し、28年度より実施する。	本学が館園実習を依頼している博物館はすべて被災し、いまだ再開の目処の立っていないところもある。平成28年度に評価基準を改めることは依頼先の博物館に混乱を与えかねないので実施を見送り、平成29年度より実施することとした。
その他 （男女共 同参画）	（法人評価までに改善する計画） 男女を問わずワークライフバランスの実現に向けて、本学育児・介護支援制度の周知と利用を促進する。	男女を問わずワークライフバランスの実現に向けて、本学育児・介護支援制度のを周知及び概要説明を会議等で行なった。	男女を問わずワークライフバランスの実現に向けて、本学育児・介護支援制度のを周知及び概要説明を会議等で行なった。